

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月7日

【評価実施概要】

事業所番号	891200016		
法人名	有限会社 ひだまりの家		
事業所名	花あかりの家		
所在地	常陸太田市下利員町1262-1 (電話) 0294-76-0822		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918	茨城県総合福祉会館内	
訪問調査日	平成20年1月30日	評価確定日	平成20年7月7日

【情報提供票より】(平成20年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 5人, 非常勤 8人, 常勤換算	3.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2階建ての	～	1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,400 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(平成20年1月15日現在)

利用者人数	14 名	男性 5 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	3 名	要支援2	
年齢	平均 84 歳	最低 68 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	根本医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは「のどかに、あせらず、じっくりと」をモットーとして、利用者に対して、家庭的な環境のもとで日常生活の介助を通じ安心と尊厳のある、ゆっくり楽しい日常生活を支援している。
職員は利用者がゆったりと自由な生活が送れるよう配慮するとともに、利用者ができることを把握し、畑仕事や調理の手伝い、それぞれ得意なことを発揮できるよう、場面づくりを行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 初回の受審につき該当なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の意義についての理解が不足しており、全職員で「自己評価」に取り組むまでに至っていないので、管理者や職員全員で「自己評価」を行い、改善に向けた具体案の検討や実践につなげるための努力が求められる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議で利用者へのサービス提供状況を報告し、参加者から意見をもらうようにしている。 また、会議内容を職員に説明し討議を行っているが、討議した意見を記録に残し、継続的にサービスの質向上に活かすよう期待する。 無料相談窓口を開設しており、市町村担当窓口パンフレット「困っていませんか?お年寄りのことで」を置いてPRしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は毎月の金銭管理報告書を家族に送付している。 面会に来る家族にはホーム内の様子を伝えているが、面会に来られない家族への報告が不足しているため、「ホームたより」を発行し、利用者のホームでの暮らしぶりを伝えることを期待する。 苦情の窓口や担当者を運営規定に明示し、意見箱を玄関に設置しているが、家族が意見を投函するまでに至っていないので、意見・不満・苦情等を表せる機会づくりや、外部評価のPRにより家族の意見を積極的に取り入れ、サービスに反映させていくことが求められる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームで行事を行う際に、地域住民を招待している。 また、地区の中学生が1日体験活動でホームに来訪するなど、地域との交流に努めている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を見直すまでには至っていない。	○	地域密着型サービスとしてのホームの役割を反映した理念を職員で相談し、つくりあげることが期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は従来のものであるが、「花あかりの家ミーティング」という形で関連施設と合同で理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで行事を開く際に地域住民を招待している。 また、地区の中学生が一日体験活動でホームに来訪するなど、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義についての理解が不足しており、全職員で「自己評価」に取り組むまでには至っていない。	○	管理者や職員全員で「自己評価」を行い、改善に向けた具体案の検討や実践につなげるための努力が求められる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで6回運営推進会議を実施している。 会議で利用者へのサービス提供状況を報告し、参加者から意見をもらうようにしている。 また、運営推進会議内容を職員に説明し、討議を行っている。	○	職員で討議した意見を記録に残し、継続的にサービスの質の向上に活かすよう期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	無料相談窓口を開設しており、市町村担当窓口にパンフレット「困っていませんか？お年寄りのことで」を置いてPRしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は毎月の金銭管理報告書を家族に送付している。 面会に来る家族にはホーム内の様子を伝えていますが、面会に来られない家族への報告が不足している。	○	「ホームたより」等を発行し、利用者のホームでの暮らしぶりを伝えることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口や担当者を運営規定に明示するとともに、意見箱を玄関に設置しているが家族が意見を投函するまでには至っていない。	○	意見・不満・苦情等を表せる機会を作るとともに、外部評価のPRにより家族の意見を積極的に取り入れ、サービスに反映させていくことが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	関連施設内での異動はあるが、交代した職員が利用者の情報・状態・記録を活用しながら理解に努めることにより、異動による利用者のダメージを防いでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症関連の外部研修に積極的に参加するとともに、受講者は報告書を作成し、職員間で共有している。 また、働きながら疑問に思ったことを題材にあげて勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近郊の同業者と交流を持ち、ホームの向上に取り組んでいるが職員間で交流するまでには至っていない。	○	勉強会や相互訪問などで、職員間の交流が図れる機会を設けることを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用するにあたり体験入居をするなど、ホームの雰囲気に馴染みながら利用者・家族の納得の上で入居している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴を把握し、利用者から写経を学ぶなど、支えあう関係を作っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向の把握・結果の記録がなく、アセスメントが不足している。	○	介護のためのアセスメントのみならず、生活を支えるためのアセスメントという観点で記録を充実することが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族が面会に来たときに意見や要望を聴取し、作成している。	○	その人らしく暮らせるよう利用者一人ひとりについて気付きや問題点について意見を出し合い、職員、主治医のアドバイスを参考にスタッフ全員で介護計画を作成することが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングシートを作成し、6ヶ月ごとに見直している。	○	モニタリングを着実に実行し、現状に即した計画の作成が望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域密着型サービスの多機能性を活かし、ショートステイを行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を確保するとともに利用者の健康管理のため受診を行っている。 また、協力医療機関ばかりでなく、利用者のかかりつけ医に受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期に向けた対応を、全員で共有するまでには至っていない。	○	利用者の重度化や終末期の対応について、職員や利用者の家族、医療機関等と話し合いを行い、方針を共有する取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりの誇りとプライバシーを尊重しながら支援しているが、個人情報保護法の面でホーム内の掲示や配慮に欠ける言葉かけが見られる。	○	入浴時の目隠しカーテン設置や個人情報保護法の理解に努め、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底が求められる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のペースで生活が送れるよう心がけるとともに、希望にそって支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が野菜などを持ってきてくれた時は利用者と一緒に野菜を切ったり、味付けまでしてもらおう。 一人ひとりの役割を職員の支援を受けながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、利用者の希望時間にそった支援をしている。 入浴を拒む利用者へは声かけにより入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	写経やぬり絵をしたり、利用者に応じた支援をしている。 利用者の好きなこと、得意なことをさらに向上できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの美容院やスーパーへの買い物、初詣等季節に応じて一人ひとりの希望にそって外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はホームの中から施錠し、外からは自由に入出りできるようになっている。	○	利用者一人ひとりの外出の癖や出て行く気配を職員が見守り、細かくキャッチすることで日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支えることが求められる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	関連施設との合同避難訓練を行っている。	○	事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加・協力を得ながら避難訓練を定期的に行うほか、夜勤時の避難など、地域の人々の協力を得られるよう求められる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の記録はないが、食事やお茶の時間、その他の水分補給で適量を把握している。	○	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有することが求められる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節のものを飾っている。節分の豆まきセットやお雛様等、利用者が和んだり居心地良く過ごせるよう工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者によっては使い慣れたテーブル・こたつ・テレビや好みのものを持ち込んでいる。	○	まだ馴染みの物の持込が少ない利用者が見受けられるので、利用者が安心して暮らせるよう、さらに家族に協力依頼を期待する。 また、事業所全体の温度管理が求められる。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。